

厚生労働科学研究費補助金（がん対策推進総合研究事業）
小児がん拠点病院等及び成人診療科との連携による長期フォローアップ体制の構築のための研究
分担研究報告書

「人間ドックの応用及び循環器のフォローアップ」

研究分担者：向井幹夫
地方独立行政法人大阪府立病院機構大阪国際がんセンター
成人病ドック科 主任部長

研究要旨

目的：がんサバイバーにおける長期フォローアップ体制の確立と晩期合併症特に心毒性を中心に検討することを目的として人間ドックデータの解析を施行した。
方法・対象：大阪国際がんセンター成人病ドック受診者を対象として成人病ドックデータベースを後方的に解析した。がんサバイバーの抽出はドック受診時の問診並びにドック結果より行なった。結果：成人病ドック受診者におけるがんサバイバーの頻度は987名中318名32.2%であった。頻度が高いがん種は、前立腺がん、乳がん、胃がん、肺がん、大腸がんの順であった。考察：がんセンター併設任意型ドックである成人ドック受診者におけるがんサバイバーの割合は3割と高い頻度で認めていた。そこで、成人病ドック受診者の検討を行うことはがんサバイバーの特有の病態の検討が有用である可能性が示唆された。今後は、がんサバイバーと非がんサバイバーと比較検討を行うことで、晩期合併症の現状や小児から成人までの幅広いがんサバイバーを対象とするフォローアップ体制の構築のための「がんサバイバードック」開発を検討していく予定である。

A. 研究目的

がんサバイバーに対する長期フォローアップ体制の確立と晩期合併症を明らかにする目的で、がんサバイバーの頻度ならびに病態を検討した。

B. 研究方法

大阪国際がんセンター併設成人病ドック受診者においてがんの既往を有するがんサバイバーを抽出し、ドックデータベースを用いて臨床的特徴並びに病態に関する後方的

検討を行った。

（倫理面への配慮）インフォームドコンセントは、成人病ドック受診者全員に対しドック開始時に臨床研究に関する包括同意を口頭並びに文章で説明し同意が得られた受診者データを研究対象とした。（大阪国際がんセンター倫理審査委員会承認番号 No.20265）

C. 研究結果

対象：成人病ドック受診者数987名（2017

年4月～2020年3月に受診した995名中非同意者8名を除外)のうち、がんの既往を有するがんサバイバーは319名(男188名、女131名、平均年齢68.9±10.4歳)であった。がん発症の平均年齢は60.0±11.5歳、調査時の発がん後の経過期間は8.9±8.1年であった。頻度が高いがんは、前立腺がん(53名)、乳がん(48名)、胃がん(51名)、肺がん(28名)、大腸がん(28名)などであった。また、がんサバイバーにおいて2箇所以上の部位にがんを発症した重複がん症例は74例(23.2%)であった。

D. 考察

大阪国際がんセンター成人病ドックは、がんを中心として動脈硬化疾患を含む成人病(生活習慣病)に特化した内容を特徴とするがんセンター併設任意型人間ドックとして稼働している。がんサバイバーの割合は、ドック受診者全体の3割以上と高い頻度でがんサバイバーが存在することが明らかとなった。がん専門施設としてのバイアスがかかっている可能性は否定できないが、成人病ドック受診者の検討を行うことでがんサバイバーの特有の病態の検討が有用である可能性が示唆された。

E. 結論

任意型人間ドック受診者における成人がんサバイバーの割合はドック受診者の3割を占めていた。がんサバイバーの病態を検討するために、人間ドック受診者の検討によりがんサバイバーと非がんサバイバーと比較検討を行うことで、晩期合併症の現状や小児から成人までの幅広い

がんサバイバーを対象とするフォローアップ体制の構築のための「がんサバイバードック」開発に結びつくことが期待される。

F. 研究発表

1. 論文発表 特になし

2. 学会発表

・向井幹夫. シンポジウム Cancer Survivor に対する取り組み-将来のCVDイベントを考えて- 成人 cancer survivor における長期フォローアップの重要性. 第3回日本腫瘍循環器学会学術集会 2020.9.11-12 (WEB) .

・向井幹夫. シンポジウム「がんサバイバーを薬剤師としてどう支えるか～AYA世代がん患者を中心に～」 がん治療における心血管毒性に対する Onco-Cardiology の役割. 2020年度文部科学省 多様な新ニーズに対応する「がん専門医療人材(がんプロフェッショナル)養成プラン」事業 大阪大学がんプロ薬学系 3 大学連携 第2回合同シンポジウム.2021.03.01(WEB)

・向井幹夫. シンポジウムがん経験者の長期的健康管理-領域横断的取り組みの現状と課題腫瘍循環器領域における問題点とその管理. 第3回 AYA がんの医療と支援のあり方研究会学術集会. 2021.03.14 東京(WEB)

G. 知的財産権の出願・登録状況

(予定を含む)

1. 特許取得 なし

2. 実用新案登録 なし

3. その他 なし